

日本新学历观的理念和意义

黄晓娟 编著

Riben Xinxueliguan
De Linian He Yiyi

哈尔滨地图出版社



日本新学历观的理念和意义

RIBEN XIN XUELIGUAN DE LINIAN HE YIYI

黄晓娟 编著

哈尔滨地图出版社

· 哈尔滨 ·

图书在版编目 (CIP) 数据

日本新学历观的理念和意义/黄晓娟编著. —哈尔滨:
哈尔滨地图出版社, 2010. 7

ISBN 978 - 7 - 5465 - 0299 - 1

I. ①日… II. ①黄… III. ①学历 - 研究 - 日本
IV. ①G531. 32

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2010) 第 130208 号

哈尔滨地图出版社出版发行

(地址: 哈尔滨市南岗区测绘路 2 号 邮政编码: 150086)

哈尔滨天兴速达印务有限公司印刷

开本: 850 mm × 1 168 mm 1/32 印张: 6.812 5 字数: 140 千字

ISBN 978 - 7 - 5465 - 0299 - 1

2010 年 7 月第 1 版 2010 年 7 月第 1 次印刷

印数: 1 ~ 50 定价: 20.00 元

目 录

序章 中国の教育の現状と研究の目的、方法	1
第1節 中国の教育の現状	1
第2節 研究の目的と方法	12
第1章 日本の戦後教育の実情	22
第1節 新教育における教育の実情	23
第2節 保守復古期における教育の実情	33
第3節 ポスト保守復古期における教育の実情	51
第2章 「新しい学历観」登場の背景	68
第1節 教育実態から見た「新しい学历観」登場の 背景	69
第2節 教育政策から見た「新しい学历観」登場の 背景	84
第3章 「新しい学历観」の性格と特色	108
第1節 「新しい学历観」の解釈	108
第2節 「新しい学历観」の教育観	133

第3節 「新しい学历観」をめぐる論争	156
第4節 「新しい学历観」について考察	170
第4章 「新しい学历観」の意義と課題	188
第1節 「新しい学历観」の今日的意義	189
第2節 中国への示唆	201
第3節 今後の課題	209
謝辞	213

序章 中国の教育の現状と研究の 目的、方法

本論文は、序章の第1節では中国における小学校教育の現状を論じ、第2節では本研究の目的と方法を提示する。

第1節 中国の教育の現状

1. 経済至上主義と教育

中国の《大地》雑誌¹⁾によると、中国社会の現状“十大”変化している。最近一つの調査から明らかになったことは、第一の変化は、“致富(富を招来するろと)”の意識がもうすべて国民に受けいれられ。“个体戸(单独経営者)”だけでなく、“党政干部(リーダ)”“知識分子(インテリゲンツィア)”、生徒等みんなが強い“致富”欲望持つ。第二の変化は、人々市場経済(販路経済)が持って來

た外の圧力に耐える能力が増強したこと。たとえ、いくつかの改革施策が出されて、油、肉、卵の値段が上がっても。20 世紀 80 年代の中期に物価が上がり社会が不安定になったようなことは引き起こさない。この点は収入が低いインテリゲンツィア見にはっきり見ることができる。第三の変化販路経済が人々に普遍的チャンスを与えるので、収入が少ない階層は収入が高い階層を非難することだけから。お互いの競争変わりつつあるので、“紅眼病(お金ない人がお金持ち人に羨ましがること)”が少なくなる。第四の変化“官本位”の意識がもうはっきりすくなかった。このことは大学の卒業生の就職動向が大きく変化し、卒業生 80% 以上が企業、会社への就職を希望している。これと関係のある第五の変化は“高収入(収入が高いこと)”の刺激から、リーダインテリゲンツィアの中の多くの人が“下海(商売でお金を儲けること)”を希望する。これが就職動向の変化をはっきり表わしている。人々が沸騰する経済生活の中にある新しい元気な支えを見つけたので、たくさんの人が自分の能力で生活する時代に入ったことが深く感じられる。社会現状の第六変化、資源に対する認識も大きく増強さ

れたことである。また資源の外延(範囲)も拡大されたことは、第七の変化である。たとえば人材、科学、技術、土地、情報などがみんな重要資源と思われ、しかもいかなる一つの資源も人々に致富(富を招来すること)の源泉になる。第八の変化は、人々の心理が「変わることを恐れる」から「変わることを欲する」までに変化し、しかも、激情型の改革から理知型の改革している。第九の変化は、人々の心理的緊張感が日増して激しくなり、生きていく危機の意識が強くなる。第十の変化は、改革が民主と効率を一緒に進めることとなったである。大多数の人はまず経済効率を優先し、経済発展によりすべての体制の民主的発展を促進しようとしている。以上の社会現状の“十大”変化から見ると、中国の経済改革は確かに成功した。

《大学生》²⁾ 雑誌による国民の十大流行語は“下海”を一番に置き、第五番目は“第二職業”(本業のほか商売などをやっている)としている。このことみても、今日の中国では経済が第一位に置かれることに間違いはない。

1978年12月中国共産党中央は第11届大会3中全会を招集し³⁾、経済建設を中心とし、四つの基本原則を堅

持し、改革開放の基本路線を堅持することを確認した。中国はこの時から社会主義建設の新時代に入り、教育事業も正確な方法に沿って発展した。

1983年9月にとう小平北京景山学校に与える言葉には「教育は、近代化に向かい、世界に向かい、未来に向かわなければならない」とあり、これは中国の教育発展の指導方針となった⁴⁾。

1985年に「中国共産党中央の教育制度改革に関する決定⁵⁾」が承認された。この文書では「教育は社会主義建設に奉仕しなければならないし、社会主義建設は教育に依拠しなければならない」と指摘している。また、教育は90年代から次の世紀はじめの中国経済と社会の発展のために、各段階各種類の人材を作らなければならないとし、工業・農業・商業などの各種各業で、教養があり、技術を理解し、業務に熟達した1億人にもものぼる労働者を養成し、また。

現代科学技術と経営管理知識を持ち、開拓能力を備えた工場長、社長、技師、農業園芸家、経済家、会計家、統計家やそのほかの経済、技術業務人員を数千万人も養成しなければならない。そのうえさらに数千万人にのぼる

現代の科学の発展と新技術の要求に対応することできる教育業務者、科学業務者、医療業務者、文化業務者、新聞編集出版業務者、法律業務者、対外業務者、軍事業務者及び各方面の党と政府の業務者を養成しなければならない。これらの人材に求められているのは「理想あり、教養あり、規律あり、社会主義祖国と社会主義事業を熱愛し、国家を富強にするとともに人々を豊かにするために辛苦奮闘する献身てき精神を備えていることであり、絶えず新知識を吸収し、事実に基づき、自立して考え、勇氣をもって創造する科学精神を備えていなければならない。」と提起した。この決定は全国てき規模で9年間の義務教育を普及させることを提案した。

1986年7月1日「中華人民共和国義務教育法」が發布され、「国家は9年制の義務教育を実施する」と規定した⁶⁾。

中国では1986年4月に「中国人民共和国義務教育法」(以下『義務教育法』と略記)が制定され、同年7月1日より施行された。

「義務教育では授業料を徴収しない」(第九條)として
いること、「いかなる組織また個人も、義務教育を受ける

べき学齡児童、生徒を雇用し、就業させてはならない」(第11條)としていることなど重要な条文をしているが、この法律は単に義務教育に関してだけでなく、中国の基礎教育(中国では小、中の義務教育の他に、幼稚園と高等学校の教育を加えて「基礎教育」と呼んでいる)全体とってきわめて大きな意義を持つ⁷⁾。

2. 厳しい受験競争と知識偏重教育

中国は巨大な国家で地域の実情も著しく異なるために、全国の学校教育を一様に充実させることは事実上無理なので、小、初中、高中、大の各段階において、まずは一部の学校だけでも重点てきに整備充実させ、その成果を全体に広げていこうとする重点学校制度を採用している。1990年の統計によれば初中では全生徒数の3%～4%が重点学校の生徒であるが、やはり都市部は比較的多く。北京市東城区の場合は50校中7校が重点学校になっている。これに対して高中の場合は、入校率のものが低いこともあろうが、重点学校の生徒数の比率は20%強と高くなっている⁸⁾。

なお、小学校については重点学校は統計に表われていないが、初中よりさらに比率は低いようである。また、

大学の場合は、北京大学、北京師範大学、清華大学、中国人民大学、中国医科大学、北京農業大学、南開大学、南京大学、復旦大学、上海交通大学の10 大学国の最重点大学に指定されている。

ところで、初中でもこのような重点学校に進学しようとすれば厳しい入試を突破しなければならないことになる。

したがって、「完全中学校」(初中、高中一貫教育する中学校)の場合も高中の進学するには、そのこの初中の生徒は外部からの受験者と対等の立場で入試に合格しなければならない。

長い期間、中国では管理的受験教育が行なわれた。その教育課程の編成から見れば、単一的科目課程であり、すべて試験と進学のための課程が中心となる。いくつかの活動授業があるけれども、しかし課外に置くとか、放課後にやるとかで、その活動授業が本来やるべき役割を發揮してこなかった。

教育の思想が保守的で、教育の手本が大体に“三中心”である⁹⁾。すなわち：①先生と生徒の関係では、先生が中心；②教育内容では、系統的な書物知識が中心；③教育方

法では、教室における教育が中心である、伝統的教育をやっている。伝統的教育は注入式とし、“満堂灌(一時間の授業がすべて先生から教える、生徒が受か身的に聞くだけ)”で、先生が“発信機”になって、生徒が“受信機”になる。

学校現場では、特に地方の小学校では試験、進学対象として、試験によく出る問題を数多くやられる、“題海戦術(問題が海のような多い)”を実施し、頻繁に試験を行なったり、“加班加点(夜遅く生徒に学習させる)”，ひいては休みに入っても生徒を学校に集めて、補習する、ある一部の子供は家に返っても、親が出した宿題をまたやらなければならない。この結果、多くの生徒は睡眠不足で、自由に使う時間もなく、一息入れることさえできない。

雑誌《江西教育》1993年5月23日によると、今日の中学生が待ち望むことは十項目あって、特に強く待ち望まれている三つの：①学校教育が一方的に進学率重視に傾く現象を克服すること；②学校側が生徒を社会参加に導き、生徒に知識と生活をよく結合させること；③先生が生徒の勉強負担を軽くし、生徒に自由時間を作って興

味を発展できること……

高校でも、進学率を高めるために、“快慢学級(同じ学級でも成績がいい生徒を集めて、批判のいい先生に教わって、進めるスピードも速いクラスを作る”快学級“と成績が悪い生徒を集めて、復習を繰り返す,”快学級“の生徒に近くように作るクラス”慢学級“と二つを分ける)”つくったり、ひいては“快慢班(同じ学級でも二類の班を作る)”組織している。

中国教育学会の副会長金世柏が、現在の中学教育における「四重・四軽」(四つの誤った重視と軽視)指摘¹⁰⁾、中の第三番目では「文化的知識を重視し、職業技術教育を軽視するという傾向である」ことを誤りとしている。中国の教育は大きな成果を獲得してきましたが、いくつかの問題もあります。そのひとつは大学が少なく、実際に入学できる人は少ないにもかかわらず大学に進みたいの人の数がたいへん多いということです。それで親は子供を良い幼稚園に、良い小学校に、良い中学高校に入れようとする。これが一つの問題である。

もう一つの問題は一人っ子の教育問題である。現在、一組の夫婦は子供を一人しか持たない。ですからお父

さん・お母さん兩親のそれぞれのお祖父さん・お祖母さんの12 目がその一人の子をみている。

中国では、家庭人口の構成がピラミッド型である。一番下のお祖父さん・お祖母さん、中間にお母さん・お父さん、頂上は“小皇帝”といわれ、一人子のため、ものすごく甘やかされる“四、二、一綜合征”もう酷い社会問題になっている¹¹⁾。

3. 育苗助長(苗の成長を助すけようとして苗を引っ張る。結果として苗を抜いてしまい、苗を枯らしてしまう。功を急ぐため事物の發展法則に違反し、かえってこと失敗に終わらせる)

近年、兒童知能を開発することは“熱門”(人気)がある、つねに“胎教”“早期知能訓練”“从娃娃抓起”(幼児からいろいろを教える)などいろいろなスローがある。啓蒙班、提高班訓練班など多く早期智能訓練をする機關(場所)が生まれた。“望子成龍”(子供が成功することを望むこと)親ができないことを恐れる、子供は親の命令に疲れている。

このようなやり方は、本当に子供の知能の開発に役に立つのか。武漢同濟医科大学公共衛生学院胡虞志教授

が、子供の知能を早期に開発することは必要だけれども、しかし、科学の規則を尊重しなければなりないと考えた¹²⁾。すなわち、児童の心身の発達水準に基づいて、順次前進、実行してよい点を重視しなければならない。子供に全然興味がないことをやらせても、これが、拔苗助長になること間違いない。子供の心身にとってなんにも良い点がない。

現在、多くの親が知能の開発に偏った考えを持っている、本来“知能”とは、知恵と能力の総和的な表われである。しかも、含む内容がとても広い。たとえば、感知、記憶観察、創造、思維、実践活動、言葉の表現など、みんなが知能を構成する要因である。これらの要因がお互い連係し合い、お互い促進し合う。しかし、親達はこの点のを認識しなかった、彼らが児童の知能開発に力を注ぐのは、大概是、技能とテクニック、たとえば、ピアノを引く、絵を書く、演劇することを子供に勉強させることである。これらは厳密に言う、全面的知能の開発とは言えない。胡教授がとくに子供に興味のないものを勉強に無理に勉強させること反対する。無理にさせるとストレスを生じさせ、子供に飽きると恐れの心理を生まれさ

せ、ひいては、正常的な授業の勉強に影響を与える。ある子供は本を見ると、頭が痛くなり、恐れる。ひいては学校に行かなくなるという手段で逃れる（不登校、登校拒否）この結果は、無理させるからである。

第2節 研究の目的と方法

1. 研究の目的

人は何のために生きるのでしょうか？

巨大な人口を抑制するため一人っ子政策を推し進め、また経済発展を遂げ豊かな国を実現するため資本主義の経済原理を受け入れ、経済開放政策を進めている最近の中国は、教育の分野においても資本主義の先進国に追いつくため知識偏重主義の教育になってっている。

しかし、このことにより、今まで中国が持っていた良い点が失われつつあるのも事実である。

経済の発展は、幸福になるための手段である、たとえ中国の経済発展が順調に進展しても、中国人自身が幸福にならなくては意味が無いように思われる。

社会の発展には教育の充実が大切であるが、現況の知